

新社長

インタビュー

昭和ゴム

昭和ホールディングス・グループにおけるゴム事業の中核を担い、更なる「アジア・ライニングNo.1」を目指す昭和ゴム。5月末に開催された同社の株主総会で社長に就任した山口紀行氏と宗宮保取締役は、ゴム事業の戦略、海外展開などを尋ねた。



山口紀行 社長

―社長就任の抱負は。
山口 昭和ゴムは歴史があり取り組んで行く。その上る企業なので非常に重みを、従業員が未来を想像で



宗宮保 取締役

―ゴム事業の戦略は。
山口 3月に最終年度を

きるような会社にしてきたい。たとえば、「この会社について良かったところを挙げてみたい」といって思いやアイデアが、私のところまで届き、それを出来る限り反映できるようにしていく。私が会社を作り上げていくというよりも、従業員が主役であり、私はサポーター役だと思ってい

山口 3月に最終年度を終えた中期経営計画「アクセルプラン2」で設定したゴムライニングで「アジア・ライニングNo.1」をさらに強化していく。第一に国内のライニング業界でのシェアを拡大していくこと。もう一つは、アジアとの連携

になることを得ないところはあるが、親会社の昭和ホールディングス・グループ全体で豊富な資金と資源があるため、それを活用したM&Aや、昭和ゴムの西と東の双方の販売拠点の強化をしていくことでまだまだ販売を拡大していくこと。もう一つは、アジアとの連携

―新しい中期経営計画は。
山口 次期中計「アクセルプラン3（仮称）」は5ヵ年計画になる予定だ。そのなかで掲げているビジョンは更なるライニング・ナンバリーを目指す。アジアとの連携を強めていくことを挙げていく。さらに、昭和ゴムが今まで培ってきた技術や製造、常盤ゴムの商社の仕入れ・販売といった機能、これらを三位一体化させていくことが重要だと捉えている。

アジアでライニング1位目指す

―海外展開の今後は。
山口 今後のアジアとの連携強化については、海外担当の宗宮保取締役と協力して進めていく。

―今後の事業戦略は。
山口 まずは売上げを伸ばし、タイ・マレーシア、インドネシアをはじめアジア全域の関連会社5社を統括する。ITの発展を統括する。ITの発展を統括する。ITの発展を統括する。

―海外展開の今後は。
山口 今後のアジアとの連携強化については、海外担当の宗宮保取締役と協力して進めていく。

―ゴムライニング事業は。
山口 ゴムライニング事業は成長させる事業と考えており、国内のライニング市場の伸びしろは大きい。確かに価格競争

―海外展開の今後は。
山口 今後のアジアとの連携強化については、海外担当の宗宮保取締役と協力して進めていく。

―海外展開の今後は。
山口 今後のアジアとの連携強化については、海外担当の宗宮保取締役と協力して進めていく。

担当。昭和ゴムと常盤ゴムの業務提携を機に常盤ゴム取締役就任。15年4月に常盤ゴム代表取締役社長に就任した。宗宮保取締役・関連会社社長の略歴

出身は埼玉県。1974年6月18日生まれ（43歳）2008年昭和ゴム入社。2010年昭和ゴム（株）経営戦略室、2011年昭和ゴム資材・営業担当取締役、2013年昭和ゴム海外担当取締役・昭和ホールディングス青島駐在員事務所 総経理（兼務）、2016年明日香食品（株）西日本事業部長（兼務）。2018年から Showa Rubber (Thailand) CO., LTD. Managing

【略歴】

山口紀行社長の略歴
出身は千葉県。1968年9月14日生まれ（50歳）1989年に昭和ゴム入社。13年には昭和ゴム取締役兼東日本営業を